

インターン生の つながる通信



そうし そうあい

創支総会～みんなが支えて みんなが会えるまち～

30年後の豊中市のビジョンを考える未来自治体(政策コンテスト)に参加しました。
30年後豊中市の人口は現在より4万人減少し、高齢者の割合も4人に1人から
3人に1人という割合になります。

そして、以下のような問題に直面する高齢者が増えると考えました。

☆課題☆

- ・地域コミュニティに参加しづらい
- ・孤独死
- ・災害時に取り残される
- ・自立して生活できない



そこで、これらの課題を解決する政策を提案します。

古希学校制度

◆対象者 70歳以上(退職後の高齢者)

◆目的 高齢者がいきいきと過ごし、規則正しい生活リズムをつくる

- ◆内容
- ・週2日、3年間の通学
 - ・音楽や体育、脳トレ、詐欺対策などの授業
 - ・遠足、就学旅行の実施
 - ・部活動、ボランティア活動

	月曜日	水曜日
1限目	遺産相続	脳トレ
お昼休み		
2限目	体育	動画作成
放課後		



〈時間割例〉

☆効果☆

①健康寿命の延伸

通学、体育など適度な運動をすること、社会的組織に参加することで、健康寿命の延伸につながる



医療費や介護保険料などの**社会保障費の抑制**につながる

②高齢者同士のつながりの形成

毎週、地域の人たちと関わる機会ができ、顔なじみや友達ができる

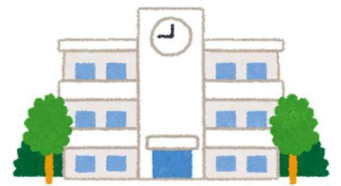


孤独死の解消や**災害時に取り残されることを防ぐ**ことができる

③廃校の有効活用

小学校、中学校の統廃合によって使われなくなった学校を活用

経費削減、地域コミュニティの維持につながる



高齢者が地域とのつながりができ、地域のコミュニティに参加しやすくなれば、いきいきと生活を送れるだけでなく、地域の担い手として現役世代を支え、**高齢者と現役世代がお互いに支え合える関係**へと変えることができます。



インターンでは、未来自治体以外にもこのような活動をしました。

・駅頭での通信配り ・議会傍聴 ・施設見学 ・勉強会 ・職員の方との意見交換 など

私は、職員の方のお話や施設見学などたくさんの貴重な体験をさせていただく中で、自分の知識不足を実感し、もっと地元、社会に関心を持つべきだと感じました。まずは、地域コミュニティに参加していきたいと思います。また、私は自分の意見を持ち、発言することが苦手でしたが、未来自治体を完成する過程で、様々な方に自分の考えを発言する機会があり、少し自信を持つことができました。このインターンを通じ、感じたこと、学んだこと、成長したことを今後の大学生活で活かしていきたいです。

大濱 愛美

2カ月という短い期間でしたが、さまざまな経験ができました。活動では、自分の知識の領域を超えた話をたくさん聞く機会がありました。また政策コンテスト通じて、物事をいろんな角度で見ないといけないことを学びました。このような経験から、もっと自分の知識の幅を広げる必要があると感じました。まずは自分の関心のない話題であっても耳を傾けていきたいと思います。大学生のうちから貴重な経験をさせていただいたことを嬉しく思い、今後の生活に生かさなければならぬと思っています。

平岡 直己